



(1) 女子大生誕生110周年

1913年8月、東北大学（旧東北帝国大学）は、黒田チカ・丹下ウメ・牧田らくの3人の女子学生の入学を認め、日本で初めての女子大生が誕生。2023年東北大学は、日本初の女子大生誕生から110周年を迎えた。

東北大学は創設当時から「門戸開放」を大学理念として掲げ、その精神は100年以上たった今も脈々と受け継がれている。2022年4月には、男女共同参画の更なる推進と、多様性・公平性・包摂性を理念として掲げる「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）推進宣言」を发出し、意識啓発や環境・制度整備を推進している。

(2) サイエンス・アンバサダー（SA）

主に自然科学系研究科に所属する女子大学院生有志が行うプログラムで、中高生を対象とした出張セミナーやオープンキャンパスでのセミナー、小学生以下の子どもを対象とした科学イベントなどを実施。身近なロールモデルとして、次世代の女子学生の理系進路選択に貢献することを目的としている。また、これらの活動などを通じて、SA自らも女性研究者としての意識醸成を行うことが期待される。

次世代放射光施設 NanoTerasu（ナノテラス）



「ジ」や、学部・大学院・研究所・大  
学病院等の講師陣によって提供され  
る研究型・課題解決型授業で、文理

融合した少人数クラスで実施される  
「学問論演習」など、意欲ある学生  
が文理・分野を越えて段階的に学修

できる仕組みを導入。研究型総合大  
学である東北大学ならではの、最先  
端の研究に裏打ちされた多種多様な  
科目で、学生の挑戦心に応え、創造  
力を伸ばす教育を行っています。  
また、東北大学は全国及び海外か  
ら多様な学生を受け入れ、国際交流  
を展開しています。英語による授業  
のみで学位が取得できる「国際学士  
コース」を設置し、入学を希望する  
者は世界各地の約30か国・地域、入  
試の志願倍率は約5倍に及びます。  
さらに、国内学生と共に学ぶ「国際  
共修科目」を数多く提供しており、  
外国人留学生と日本人学生が共に学  
ぶグローバルな修学環境のもと、相  
互理解を深めながら、国際的な視野  
を深めています。

とりわけ、2023年は東北大学  
が日本の大学として初めて女子学生  
を受け入れてから110年の節目の  
年にあたります。東北大学では、  
自然科学系分野に進む女子学生や女  
性研究者の比率の向上と次世代の女  
性研究者の育成のため、サイエン  
ス・アンバサダー（SA）の活動  
など、さまざまな女子学生支援に力  
を入れていきます。

わが国屈指の研究大学として  
世界水準の研究活動を展開

東北大学はわが国屈指の研究大学  
として世界水準の研究活動を展開し、  
世界を牽引する実績を重ねています。  
多彩な半導体関連の世界的な研究開  
発をはじめ、基礎研究から先端研究

文理融合研究、産学連携プロジェクト  
まで最先端の取り組みが走ってい  
ます。  
その一つ災害科学の分野において  
は、災害科学国際研究所（災害科学  
世界トップレベル研究拠点）が、被  
災地の復興・再生はもとより、国  
境・文化を超えた世界の「BOSA  
I（防災）」に貢献。スーパーコン  
ピュータを用いた世界初の「リアル  
タイム津波浸水被害予測システム」  
を開発し、内閣府に採用され、  
2017年11月より運用が始まって  
います。また、国内外の防災関係者  
が集う「世界BOSA Iフォーラム」  
を2年に1度仙台で開催し、  
2015年に採択された国際アジェ  
ンダである仙台防災枠組、SDGs  
などの推進に貢献しています。  
最近注目の研究成果としては、生  
命科学研究科の近藤倫生教授が、世  
界で初めて環境DNA調査に関する  
ビッグデータの構築に成功。「生物  
多様性の損失を逆転させ回復させ  
る」ネイチャーポジティブの実現へ  
大きな貢献を果たしました。さらに、  
環境科学研究科の松八重一代教授は、  
原料採取から製造、流通、廃棄、リ  
サイクルに至るライフサイクル全体  
の環境負荷を可視化、評価する「ラ  
イフサイクルアクセスメント」に取  
組み、持続可能な資源循環システ  
ムの構築に貢献しています。  
一方、変化する課題に対応し、社  
会価値を創出する産学共創体制とし  
て、東北大学青葉山新キャンパスで



おのおの  
大野英男 総長  
1977年東京大学工学部電子工学科卒  
業。82年同大学大学院工学系研究科  
博士課程修了。専門は半導体物理・  
半導体工学、スピントロニクス。東北  
大学教授などを経て2018年より現職。  
2010～14年まで内閣府最先端研究開  
発支援プログラム「省エネルギー・  
スピントロニクス論理集積回路の研究  
開発」中心研究者。トムソン・ロイ  
ター引用栄誉賞など受賞多数。

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内28 入試課 TEL 022-795-4802 <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

東北大学

国際卓越研究大学の認定候補に選定され  
世界をリードする研究大学を目指して  
全学一丸となって邁進

1907（明治40）年に日本で3番目の帝国大学として  
創設された東北大学。研究と教育を一体のものとして位置づけ、  
優れた研究に裏打ちされた教育を目指す大学として、時代  
に先駆けた多くの研究成果を世界に向け発信してきました。  
その卓越した伝統は、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」  
という3つの柱からなる建学の理念に現れています。

2023年9月、文部科学省の有識者会議の審査により、  
世界トップレベルの研究力を目指す「国際卓越研究大学」  
の認定候補第1号に選定されました。今後、研究等体制強  
化計画のさらなる精査を経て、2024年度に最終決定がな  
され、社会から大学改革を先導することが期待されています。

国際卓越研究大学  
認定候補に選定

「国際卓越研究大学制度」とは、  
国際的に卓越した研究の展開及び社  
会経済に変化をもたらす研究成果の  
活用が相当程度見込まれる大学を政  
府が認定し、当該大学が作成する研  
究等体制強化計画に対して、大学  
ファンドによる助成がなされるもの  
です。

東北大学の計画では、3つのコ  
ミットメント「未来を変革する社会  
価値の創造」、「多彩な才能を開花さ  
せ未来を拓く」、「変革と挑戦を加速  
するガバナンス」の下、全方位の国  
際化などの6つの目標を達成するた  
めに、19の戦略を提示。基盤的研  
究・分野融合研究・トップレベル研  
究の3階層ごとの戦略的研究支援、  
若手研究者の独立研究環境の全学展  
開、横断型学位プログラムの拡大を  
はじめとする大学院変革、国際共修  
の必修化による研究大学にふさわし  
い学部変革、産学共創の拠点形成、  
大学発スタートアップの拡大などを  
進めます。

海外有力機関と国際共同研究を展開  
若手リーダー研究者への支援も

東北大学ではコロナ禍においても  
海外の優れた研究者との国際共同研  
究を推進するため、2020年度に  
オンラインを活用した海外クロスア  
ポイントメント制度を創設しました。  
東北大学が特に強みを有する材料科  
学、スピントロニクス、未来型医療、  
災害科学の4領域（世界トップレ  
ベル4研究拠点）で自主財源を投入し、  
ワシントン大学やUCI、ケンブリ  
ッジ大学など海外有力機関の研究  
者と国際共同研究を展開しています。  
さらに、2021年度に採択され  
た文部科学省「先端研究基盤共用促  
進事業（コアファシリティ構築支援  
プログラム）」により、研究施設・  
機器の共用促進と研究設備を運営す  
る技術専門人材の育成を一体的に実  
施する「コアファシリティ統括セン  
ター」を設置。学内はもとより、国  
内外のあらゆる研究が場所、時間  
の壁を越え東北大学の最先端設備にア  
クセス可能な環境を整備しています。  
ほかにも、長期海外渡航を支援す  
る「若手リーダー研究者海外派遣プ  
ログラム」や、ノーベル賞受賞者級  
の研究者を数カ月招聘し、特定の  
テーマについて若手研究者と集中的  
に議論する「知のフォーラム」事業  
などを通じ、若手研究者の支援に力  
を入れてきました。コロナ禍におい  
てもオンラインによる国際コミュニ  
ティ形成のDX化を進め、文部科学



東北大学附属図書館デスクトップPCエリア

THE「日本大学ランキング」で  
4年連続1位を獲得

東北大学は教育に焦点を置いた  
THE「日本大学ランキング」  
2023年度版で4年連続1位を獲  
得しました。教育リソースや教育充  
実度、企業の人事などから見た教育  
成果や国際性などが高く評価されて  
います。  
2018年度からは教養教育「全  
学教育」の改革に取り組み、22年度  
には新しいカリキュラムがスタート  
しました。現代的なりべラールアーツ  
を学ぶ教育プログラム「挑創カレッ